

新製品・新事業の特許情報を利用して創出する！

IAT アイアット国際特許業務法人
IAT WORLD PATENT LAW FIRM

“新製品・新事業創出”？

**2030年、日本の労働人口の49%が人工
知能やロボット等で代替可能に**

出典：株式会社野村総合研究所HP

～今あるビジネスがいつまで続くかわからない～

“特許情報を利用して”？

特許は、企業が、人・時間・お金を費やして、将来のビジネスの成功を祈って獲得するもの。



特許群から「技術／市場」動向が見える。
特許情報を使わない手はない！！

特許情報に基づく 3つの手法

- (1) サイテーション利用法
- (2) 用途分類利用法
- (3) ランドスケープ利用法

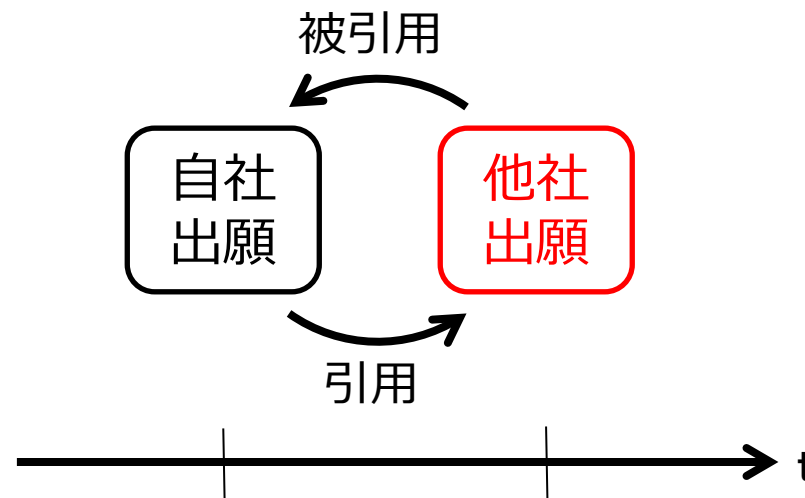
出典：知的財産戦略講座⑥
著 山内 明

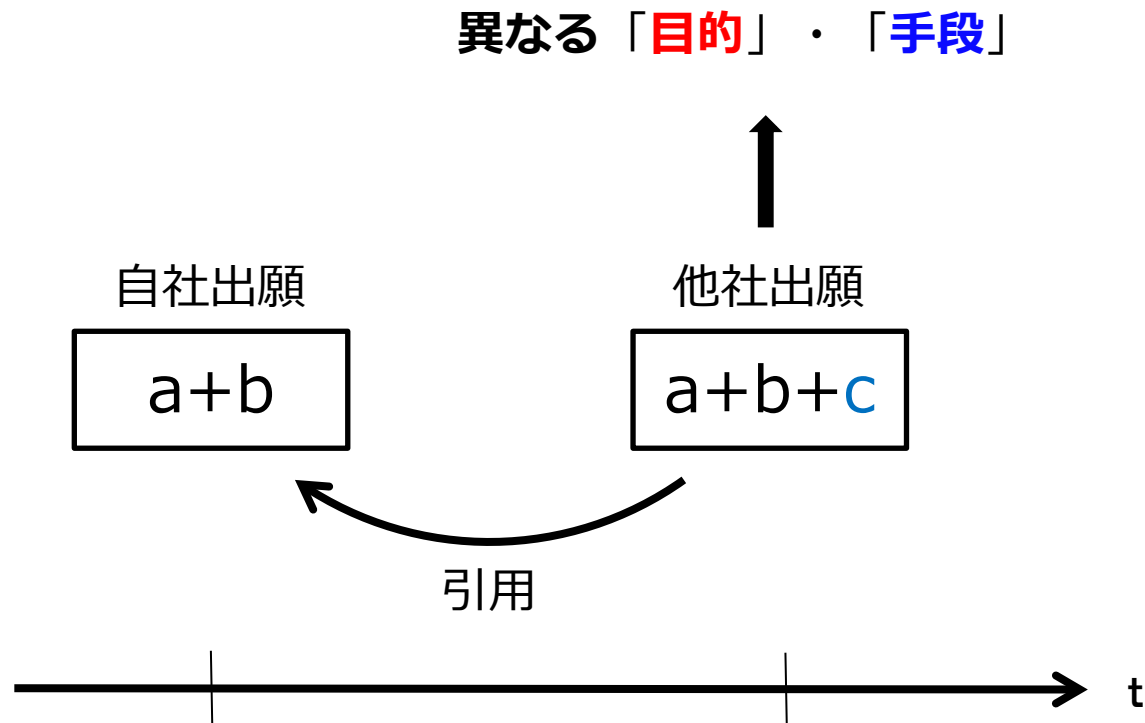


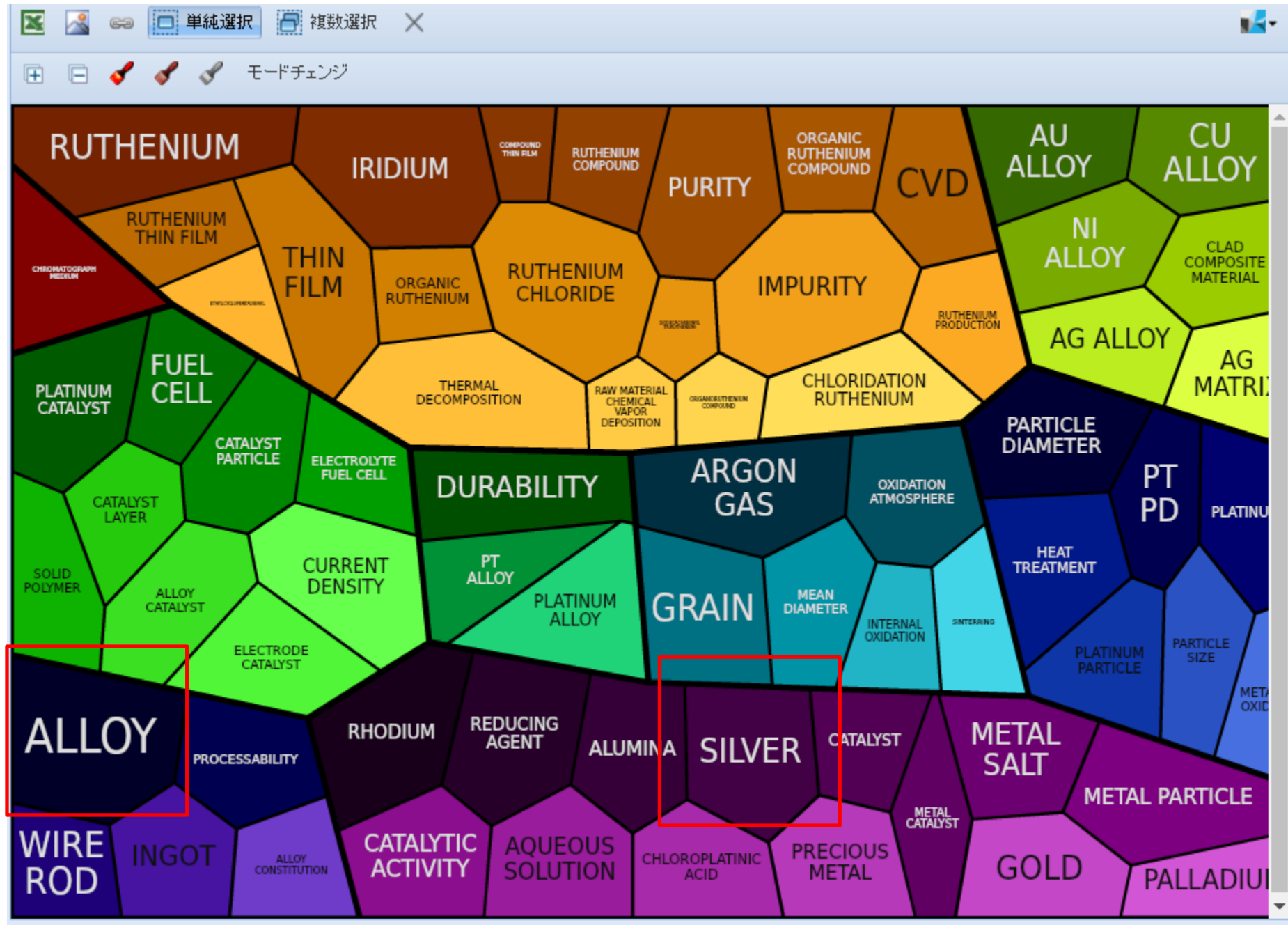
製品／サービス

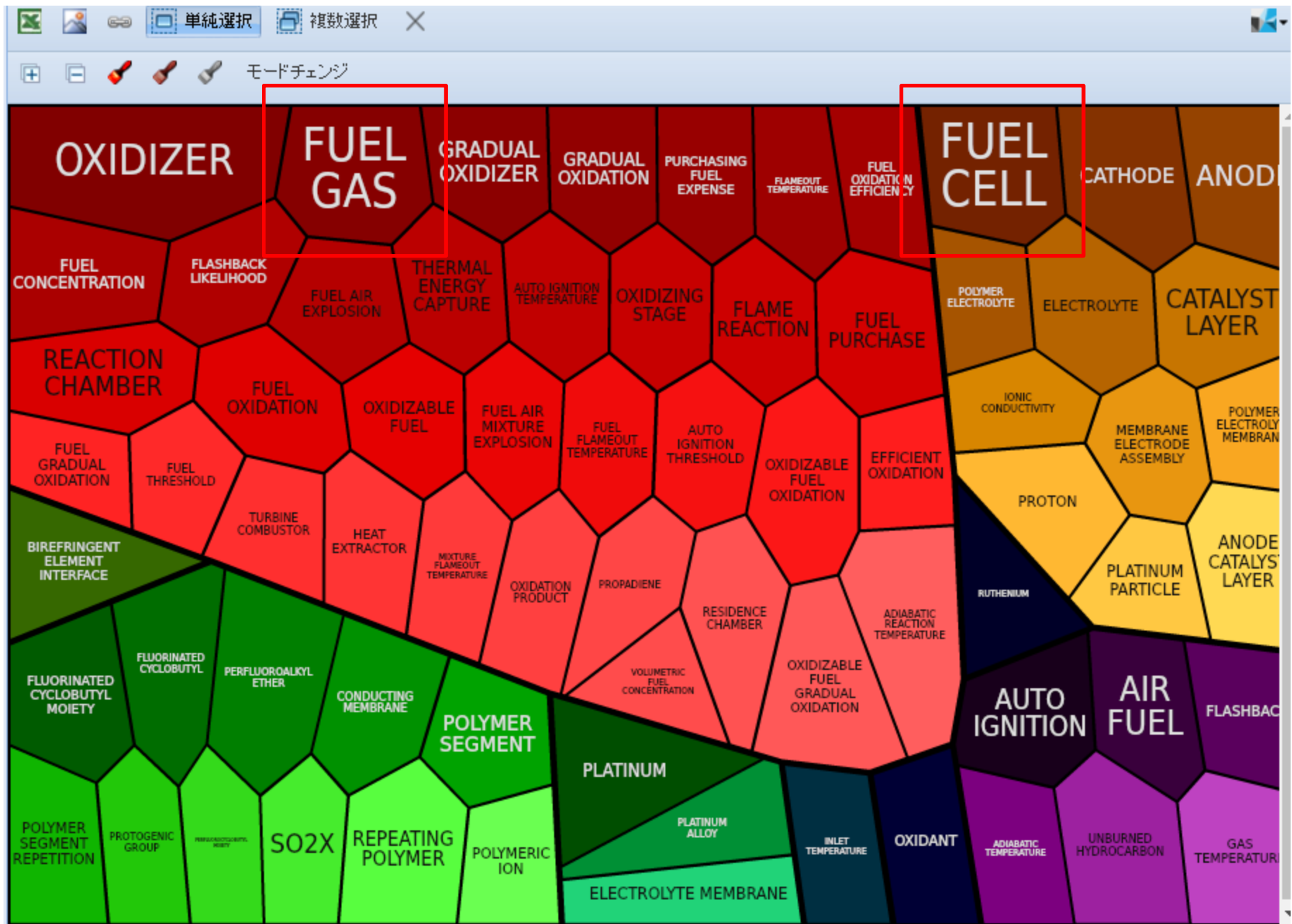
サイテーション利用法

(a) 拒絶理由において「自社出願」が引用された「**他社後願**」に着目



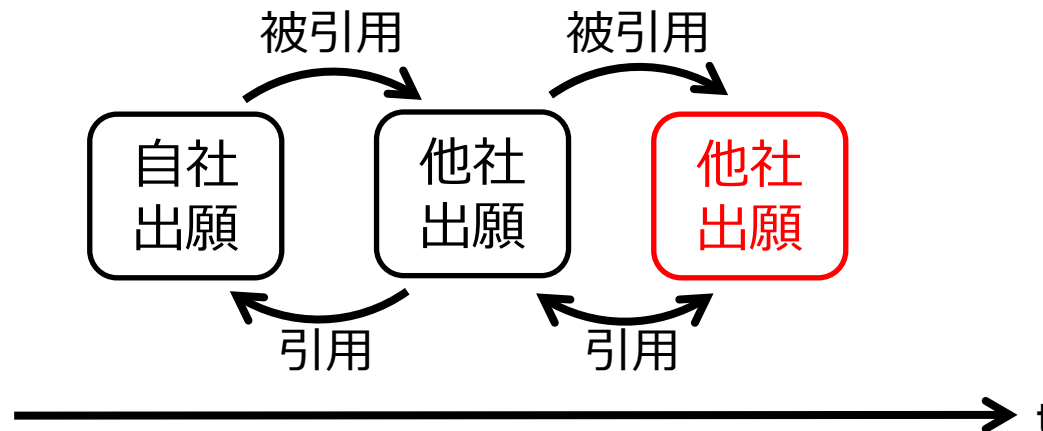






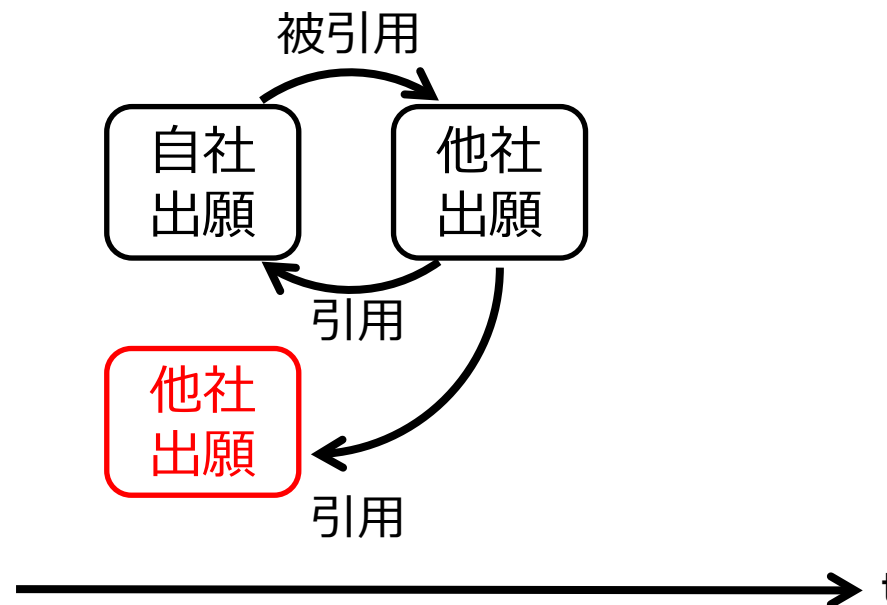
サイテーション利用法

(b) 「自社出願」を引用した「他社後願」からさらに引用した「**他社後願**」に着目（孫被引用他社後願）



サイテーション利用法

(c) 「自社出願」を引用した「他者後願」において引用された「他社出願」



サイテーション利用法

【ステップ1】
サブ母集団設定

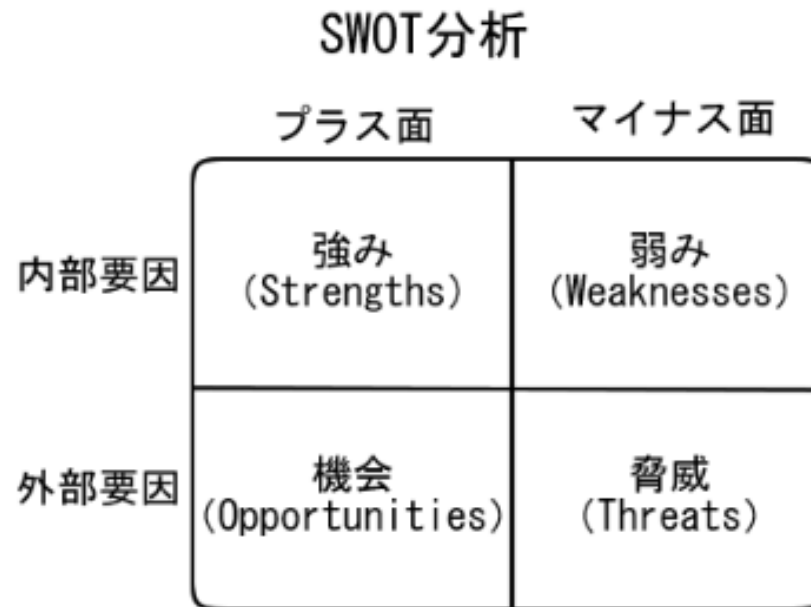


【ステップ2】
母集団の傾向を探る



【ステップ3】
その傾向を分析し、有望用途探索
する

サイテーション利用法



IAT

IAT WORLD PATENT LAW FIRM